

【生薬名】 良姜 ALPINIAE OFFICINARUM RHIZOMA

【起源植物】 リョウキョウ(和名なし) *Alpinia officinarum*



【科名】 ショウガ科 *Zingiberaceae*

【別名】 高良姜 (中国ではこう呼ぶのが一般的)

【薬用部分】 根茎

【主成分】 精油、フラボノイド、辛味成分

【薬性】 気味は辛熱、帰経は脾胃に属す

【効能】 ●散寒止痛

●中を温め寒を散じ気を行らせて痛みを止める

●作用は乾姜と似ており、循環促進・健胃?・鎮痛作用がある。  
乾姜は循環促進作用が強く、良姜は鎮痛作用が強い

●胃・十二指腸潰瘍や慢性胃炎で、多唾、温めたり押さえると痛みが和らぐなどの寒象をともなう上腹部の寒痛によく効く

●胃寒による吃逆にもよい

●良姜は刺激性が強いので、虚弱体質のものは単独で使用しない方がよい

●1日0.5~2 g

【出典】 ●暴冷、胃中の冷逆、霍乱腹痛を治す。(名医別録中品)

●良姜 性熱、気を下し、中を温め、転筋、霍乱、酒食を能く攻む。(薬性歌)

●療胃中冷氣、腹痛、消宿食。(一本堂薬選)

【備考】 ●この薑は初めて産した所が高良群だったのでこの名があるという

●

●

【処方例】 ●安中散、良枳湯、良附丸、二薑丸